

# 平成 17 年 3 月期 第 3 四半期財務・業績の概況（連結）

平成 17 年 2 月 10 日

上場会社名 神姫バス株式会社 (コード番号： 9083 大証第 2 部)  
 (URL <http://www.shinkibus.co.jp/>)  
 代表者 役職名 代表取締役社長 氏名 上杉 雅彦  
 問合せ先責任者 役職名 企画部長 氏名 長尾 真 TEL：(0792) 23 - 1243

## 1 四半期財務情報の作成等に係る事項

- ① 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有  
 (内容)  
 引当金、法人税等の計上基準等に一部簡便的な方法を採用しております。
- ② 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 有  
 (内容)  
 添付資料で会計処理の方法の変更について詳述しております。
- ③ 連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 無

## 2 平成 17 年 3 月期第 3 四半期財務・業績の概況（平成 16 年 4 月 1 日 ～ 平成 16 年 12 月 31 日）

(1) 経営成績（連結）の進捗状況 (注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
17 年 3 月期第 3 四半期	27,690	(6.7)	1,711	(0.4)	1,702	(0.1)	1,045	—
16 年 3 月期第 3 四半期	25,961	—	1,705	—	1,700	—	—	—
(参考)16 年 3 月期	34,972		1,893		1,897		1,228	

	1 株当たり四半期(当期)純利益		潜在株式調整後 1 株当たり四半期(当期)純利益	
	円	銭	円	銭
17 年 3 月期第 3 四半期	36.95		—	
16 年 3 月期第 3 四半期	—		—	
(参考)16 年 3 月期	40.84		—	

(注)1. 売上高等におけるパーセント表示は、対前年同四半期比増減率を示しております。

2. 前年同四半期実績は売上高、営業利益及び経常利益の開示であったため、他の項目における比較は行っておりません。

### [経営成績（連結）の進捗状況に関する定性的情報等]

当第 3 四半期連結会計期間におけるわが国経済は、設備投資の増加、製造業を中心とした企業収益の向上に加え、雇用情勢や個人消費におきましても回復傾向にあります。しかし、一方では原油価格高騰や災害発生等、当社グループを取り巻く経営環境は厳しいものがありました。このような状況下、当社グループは「企業ビジョン」を柱とした経営戦略を積極的に推進し、顧客志向の徹底と経営基盤の安定に努めました。

この結果、売上高は 27,690 百万円（前第 3 四半期連結会計期間比 6.7%増）、営業利益は 1,711 百万円（同比 0.4%増）、経常利益は 1,702 百万円（同比 0.1%増）、当第 3 四半期純利益は 1,045 百万円となりました。

(2) 財政状態（連結）の変動状況

	総資産	株主資本	株主資本比率	1株当たり 株主資本
	百万円	百万円	%	円 銭
17年3月期第3四半期	35,632	21,492	60.3	760.53
16年3月期第3四半期	—	—	—	—
(参考)16年3月期	36,273	20,778	57.3	729.67

(注) 財政状態（連結）においては、当第1四半期より開示を行っているため、前年同四半期実績については、記載しておりません。

[財政状態（連結）の変動状況に関する定性的情報等]

当第3四半期の財政状態は前連結会計年度末と比較して以下のとおりであります。

総資産は経営土地建物の手付金の増加はありましたものの、補助金等の未収、有形固定資産の減少等により640百万円減少し、35,632百万円となりました。また、負債は借入金の返済や法人税の支払等により1,357百万円減少し、14,035百万円となりました。株主資本は714百万円増加し、21,492百万円となりました。

3 平成17年3月期の連結業績予想（平成16年4月1日～平成17年3月31日）

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 予想当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
通 期	36,000	1,750	1,450	48.88

(注) 1株当たり予想当期純利益の計算は、平成16年12月末の発行済株式数（自己株式を除く）によっております。

[業績予想に関する定性的情報等]

当第3四半期における業績は、概ね計画通りに推移しておりますので、平成17年3月期の業績予想につきましては、平成16年11月26日公表の業績予想と変更ありません。

※業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

以 上

[添付資料]

四半期連結財務諸表等

1. 四半期連結貸借対照表

(単位百万円)

科 目	期 別	(参考)
	当第3四半期 連結会計期間末 (16.12.31)	前連結会計年度の 要約連結貸借対照表 (16.3.31)
	金 額	金 額
(資産の部)		
I 流 動 資 産		
現金及び預金	5,358	5,483
受取手形及び売掛金	1,533	1,699
未収運賃	430	335
有価証券	-	90
たな卸資産	350	295
経営土地建物	1,051	1,373
その他	1,512	1,145
貸倒引当金	△ 19	△ 18
流動資産合計	10,217	10,405
II 固 定 資 産		
(1) 有 形 固 定 資 産		
建物及び構築物	19,201	19,103
減価償却累計額	△ 12,218	△ 11,856
機械装置及び工具器具備品	2,146	2,127
減価償却累計額	△ 1,574	△ 1,515
車両	11,172	11,002
減価償却累計額	△ 9,816	△ 9,455
土地	12,456	12,543
建設仮勘定	27	60
有形固定資産合計	21,395	22,009
(2) 無 形 固 定 資 産	154	154
(3) 投 資 そ の 他 の 資 産		
投資有価証券	2,687	2,577
その他	1,189	1,134
貸倒引当金	△ 11	△ 9
投資その他の資産合計	3,865	3,703
固定資産合計	25,415	25,867
資 産 合 計	35,632	36,273

(単位百万円)

科 目	期 別	(参考)
	当第3四半期 連結会計期間末 (16.12.31)	前連結会計年度の 要約連結貸借対照表 (16.3.31)
	金 額	金 額
(負債の部)		
I 流 動 負 債		
支払手形及び買掛金	1,148	1,059
短期借入金	935	800
1年内返済予定の長期借入金	793	1,518
未払金	1,829	2,050
未払法人税等	300	620
賞与引当金	572	708
その他	1,459	1,459
流動負債合計	7,039	8,217
II 固 定 負 債		
長期借入金	2,974	3,120
退職給付引当金	346	347
役員退職慰勞引当金	223	207
受入保証金等	2,930	2,931
その他	520	567
固定負債合計	6,996	7,174
負債合計	14,035	15,392
(少数株主持分)		
少数株主持分	104	102
(資本の部)		
I 資 本 金	2,420	2,420
II 資 本 剰 余 金	1,529	1,529
III 利 益 剰 余 金	16,930	16,066
IV その他有価証券評価差額金	781	856
V 自 己 株 式	△ 168	△ 93
資本合計	21,492	20,778
負債、少数株主持分及び資本合計	35,632	36,273

(注) 前年同四半期については連結貸借対照表を開示していないため、記載しておりません。

## 2. 四半期連結損益計算書

(単位百万円)

科 目	期 別	(参考)
	当第3四半期連結会計期間 (16.4.1~16.12.31)	前連結会計年度の 要約連結損益計算書 (15.4.1~16.3.31)
	金 額	金 額
I 売上高		
自動車運送事業収益	12,925	17,168
売上高	14,764	17,803
計	27,690	34,972
II 売上原価		
運送費	9,953	13,298
売上原価	10,465	12,191
計	20,418	25,489
売上総利益	7,272	9,482
III 販売費及び一般管理費	5,560	7,589
営業利益	1,711	1,893
IV 営業外収益		
受取利息	8	9
受取配当金	19	12
持分法による投資利益	-	26
その他	78	86
計	105	134
V 営業外費用		
支払利息	47	77
固定資産除却損	27	27
持分法による投資損失	11	-
その他	28	25
計	114	130
経常利益	1,702	1,897
VI 特別利益		
固定資産売却益	11	77
補助金	4	761
関係会社清算配当金	-	86
投資有価証券売却益	178	32
計	194	958
VII 特別損失		
固定資産除却損	-	58
固定資産圧縮損	-	111
固定資産売却損	-	160
固定資産評価損	-	219
年金脱退特別掛金	-	35
減損損失	131	-
計	131	584
税金等調整前四半期(当期)純利益	1,766	2,270
法人税等	719	1,043
少数株主利益	2	-
少数株主損失	-	0
四半期(当期)純利益	1,045	1,228

(注) 前年同四半期については連結損益計算書を開示していないため、記載していません。

## 3. 四半期財務情報の作成等に係る事項

固定資産の減損に係る会計基準（「固定資産の減損に係る会計基準の設定に関する意見書」（企業会計審議会 平成14年8月9日））及び「固定資産の減損に係る会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第6号 平成15年10月31日）が平成16年3月31日に終了する連結会計年度に係る連結財務諸表から適用できることになったことに伴い、当中間連結会計期間から同会計基準及び同適用指針を適用しております。これにより税金等調整前四半期純利益は131百万円減少しております。

#### 4. セグメント情報

##### 1. 事業の種類別セグメント情報

当第3四半期連結会計期間（自平成16年4月1日至平成16年12月31日）

（単位百万円）

	自動車 運送事業	車両物販・ 整備業	業務受託・ 介護事業	不動産業	レジャー サービス業	その他 事業	計	消去又は 全社	連結
売上高									
(1) 外部顧客に 対する売上高	12,925	3,620	1,118	1,579	7,872	573	27,690	—	27,690
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	92	1,091	47	188	163	290	1,873	(1,873)	—
計	13,018	4,712	1,165	1,767	8,035	863	29,563	(1,873)	27,690
営業費用	12,643	4,508	1,073	902	7,927	803	27,859	(1,881)	25,978
営業利益	374	203	92	864	108	59	1,703	7	1,711

（参考）

前連結会計年度（自平成15年4月1日至平成16年3月31日）

（単位百万円）

	自動車 運送事業	車両物販・ 整備業	車両運行 管理業	不動産業	レジャー サービス業	その他 事業	計	消去又は 全社	連結
売上高									
(1) 外部顧客に 対する売上高	17,168	4,686	1,431	1,957	8,936	792	34,972	—	34,972
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	128	1,405	62	305	228	381	2,511	(2,511)	—
計	17,296	6,091	1,493	2,263	9,164	1,173	37,483	(2,511)	34,972
営業費用	16,775	5,872	1,394	1,176	9,262	1,124	35,605	(2,526)	33,078
営業利益又は営業損失(△)	521	219	99	1,086	△ 97	49	1,878	14	1,893

（注）1. 事業区分は、機能別かつ内部管理上採用している区分によっております。

##### 2. 各事業の主な内容

- (1) 自動車運送事業 ----- 一般乗合・貸切・乗用・特定旅客運送、郵便物の運送  
 (2) 車両物販・整備業 ----- 自動車部品・タイヤの販売、自動車の修理、保険代理  
 (3) 業務受託・介護事業（旧車両運行管理業） --- 自動車の運転・保守管理、介護

なお、自動車の運転・保守管理を行っております子会社㈱ホープが介護事業を開始したことを機に、事業の業種・業態の統合性、管理上の重要性・有用性を勘案した結果、事業の実態をよりの確に反映する名称として、前連結会計年度までの「車両運行管理業」に変えて、当第1四半期より「業務受託・介護事業」として表示しております。

- (4) 不動産業 ----- 土地造成、建物の建築、土地・建物の売買、賃貸、仲介及び管理  
 (5) レジャーサービス業 ----- 高速道路売店等における物販を含む飲食業、遊技場、旅行業、索道業、レンタル業  
 (6) その他事業 ----- 食料品・雑貨・化粧品等の物品販売、広告代理、清掃警備

##### 3. 「消去又は全社」の項目に含めた配賦不能営業費用はありません。

4. セグメントの開示は、当第1四半期より行っておりますので、前年同四半期については、記載しておりません。

##### 5. 事業区分の方法の変更

従来、子会社である神姫クリエイト㈱の保険代理業は「その他事業」として表示しておりましたが、その事業を子会社である神姫商工㈱に売却しましたこと、保険代理業の大半が自動車損害賠償責任保険等自動車に係わるものであること等を勘案し、当第1四半期より「車両物販・整備業」に含めて表示することに事業区分の方法を変更いたしました。

この結果、従来の方法によった場合に比べ、当第3四半期の「車両物販・整備業」の売上高は39百万円（外部顧客に対する売上額も同額）、営業費用は33百万円、営業利益は6百万円増加し、「その他事業」はそれぞれ同額減少しております。

##### 2. 所在地別セグメント情報

当第3四半期及び前連結会計年度ともに本国以外の国又は地域に所在する連結子会社及び在外支店がないため、該当事項はありません。

##### 3. 海外売上高

当第3四半期及び前連結会計年度ともに海外売上高がないため、該当事項はありません。